

**国際連合安全保障理事会改革に関する
G 4（日本、ブラジル、ドイツ、インド）外相会合
共同声明（仮訳）**

1 2025年9月25日、G 4外相であるマウロ・ヴィエラ・ブラジル外務大臣、ヨハン・ヴァーデフル・ドイツ連邦共和国外務大臣、スブラマニヤム・ジャイシャンカル・インド外務大臣及び岩屋毅・日本国外務大臣は、第80回国連総会のマージンで、国連安全保障理事会（安保理）改革に関する現状の評価と今後の展望について議論するため、会合を開催した。

2 G 4外相は、国際秩序が一層不安定化し、多国間主義の中心である国連がその役割を果たすことがますますできなくなっている中、現代の地政学的な現実を真に反映させるために安保理を可能な限り早期に改革し、それによって安保理の代表性、正統性、実効性及び効率性を高めることが極めて重要であることを強調した。G 4外相は、安保理改革には、常任・非常任双方の理事国カテゴリーにおいて安保理を拡大することが不可欠であり、この立場は加盟国の大多数によって支持されていることを強調した。G 4外相は、途上国及び国際の平和と安全に多大な貢献をしている国の役割と参加を、常任・非常任双方の理事国カテゴリーにおいて向上させる必要性について一致した。この点に関し、G 4外相は、アフリカ、アジア太平洋及びラテンアメリカ・カリブ海地域といった代表性の低い及び代表されていない地域・グループの常任・非常任双方の理事国カテゴリーにおける代表性を改善することの重要性を改めて強調した。G 4外相は、エズルウィニ合意及びシルテ宣言にうたわれているアフリカ共通ポジションへの強い支持を再確認した。

3 包括的な安保理改革は、全ての加盟国にとって最善の利益となる。G 4外相は、法の支配の尊重、国連憲章の目的及び原則の完全な遵守、多国間主義へのコミットメントを含む共通の政治的価値を共有する民主主義国として、国際の平和と安全を維持するという安保理の主要な責任を引き受けるG 4各国の意思と能力を再確認した。また、G 4外相は、改革された安保理における新常任理事国候補としての互いの立候補への支持を改めて表明した。

4 G 4外相は、第79回国連総会の作業を振り返り、前会期に続いて加盟国及びグループによってモデルの提示が行われていることを評価しつつ、政府間交渉（I G N）の枠組みにおいて安保理改革について具体的な進展が依然として見られないことへの強い懸念を改めて表明した。G 4外相は、国連創設80周年を背景に、第80回国連総会会期において積極的に議論に参加することを強調した。G 4外相は、改革の緊急の必要性を踏まえ、昨年、国連において世界の首脳が認識したとおり、文言ベースの交渉につながる統合モデルを作成することを目指し、G 4間で緊密に協力し、また他のグループと協働する意図を表明した。また、G 4外相は、コンセンサスが意思決定の要件ではないという事実を強調しつつ、I G Nが国連の標準的な作業方法及び手続並びに国連総会規則に従うことの重要性を強調した。さらに、G 4外相は、安保理改革に関する議論はI G Nのみに限定される必要はないことを強調する

とともに、国連総会を含む他のフォーラムにおいて、この問題について幅広く国連加盟国と関与する意思を表明した。

5 G4 外相は、国際社会に対し、第80回国連総会会期における取組に真摯に関与するよう呼びかけ、包括的な国連改革の一環として安保理改革を進めるために幅広い国連加盟国にさらに働きかけ、誠実に協力することにコミットした。